

耐震診断調査で偽装

小学校2校 水戸の設計事務所

茨城県神栖市の市立小学校2校の耐震工事で、市から耐震診断調査を請け負った水戸市の設計事務所が、実際には調査していないのに架空の診断書を作って市に提出していたことが分かった。第三者機関の証明書類も偽造していた。工事は来年度開始予定だったが、市は設計作業を中断。建築士法違反の可能性もあるとみて県と調べている。

耐震診断を偽装していたのは天建築設計事務所。県や市によると、昨年6月、神栖市の市立小3校の体育館の診断調査を一般競争入札で受注した。請負額は税込みで722万円。1校は実際に診断したが、2校は診断に必要な構造計算などをせずに調査報告書を作成。さらに、診断内容を評価する県建築センターの「判定書」をパソコンで偽造し、報告書とともに今年3月に提出した。自治体が文部科学省の補助を受けるためには、判定書の提出が義務づけられている。

耐震工事の設計を請け負った別の設計事務所が先月、センターに判定書の内

2013. 8. 28

朝日新聞 朝刊 第38面 (社会面)

容を照会し、判定書が発行されていないことが判明。県と市が天建築設計事務所に事情を聞いたところ、偽装を認めたという。

同事務所の天茂彦所長は、朝日新聞の取材に「所

員が、構造計算をしてくれる1級建築士を見つけれず、提出期限が迫ってやっってしまったようだ。市の指摘で知り、すぐに解雇した。ご迷惑をおかけして申し訳ない」と話した。